

3)極大粒大豆優良品種候補「中育24号」

中央農業試験場 畑作部 畑作第1科

1.はじめに

現在、道央及び道南で栽培されている白目・極大粒の良質品種は、「ユウヒメ」及び「ユウヅル」であるがダイズわい化病に罹病し易く、耐倒伏性に欠けている。「中育24号」は、ダイズわい化病抵抗性はやや強で、耐倒伏性も優れている。しかも、成熟期は「ユウヒメ」よりやや早いが収量は等しく、粒大は「ユウヅル」並の極大粒で品質は良い。以上から道央の中部・南部及び道南地域向けの白目・極大粒品種として奨励品種に採用したい。

2.育成経過

道央及び道南地域に適する白目、極大粒、良質及びダイズわい化病抵抗性品種の育成を目標として昭和54年に北海道立中央農業試験場において、だいず「中系67号」(ツルコガネ)を母、だいず「中育12号」を父として人工交配して育成した系統で、平成元年度はF10代である。

3.特性概要

円葉、白花で、成熟期は「ユウヒメ」よりやや早い中生種で生態型は夏大豆型に属する。伸育型は有限で、主茎長は「ユウヒメ」並で倒伏はほとんど無い。裂莢性は中程度で裂皮はほとんど発生しない。粒の大きさは極大粒に属し、種皮及び臍の色は「ユウヅル」と等しく黄白・白目で良品質である。ダイズわい化病には「ユウヅル」より強い抵抗性をもつが、ダイズシストセンチュウ抵抗性、耐湿性は「ユウヒメ」並に弱である。子実収量、子実の粗蛋白含有率及び粗脂肪含有率は「ユウヒメ」並で、煮豆適性は高く、また豆腐用加工適性もある。

4.普及態度

「ユウヒメ」、「ユウヅル」及び「トヨムスメ」の一部に置き換えて普及させたい。ダイズシストセンチュウ抵抗性、茎疫病抵抗性、耐湿性及び耐冷性は比較品種と同様に弱いので、適正な輪作体系及び排水対策等に努める必要があるとともに、対象地域を厳守する。

表1 普通畑における生育、収穫物及び品質調査成績(生産力検定試験)¹⁾

系統名 または 品種名	成熟期 (月日)	倒伏 程度	主茎長 (cm)	主茎 節数 (節)	分枝数 ²⁾ (本)	稈実 莢数 ²⁾ (莢)	1莢内 粒数 (粒)	全重 (kg/a)	子実重 (kg/a)	子実重比 対 ユウヒメ(%)	百粒重 (g)	品質 ³⁾
中育24号	10.3	微	56	13.6	5.6	66	2.05	67	34.3	99	40.7	2中
ユウヒメ	10.6	多	59	13.9	6.3	64	1.98	71	34.5	100	40.4	2下
ユウヅル	10.16	多	75	16.4	4.3	57	1.76	63	27.8	81	41.4	3上
トヨムスメ	10.4	微	47	11.1	5.1	71	2.01	68	34.5	100	34.3	2下

1) ; 昭和62年～平成元年の3か年平均値。

2) ; 1株(2個体)当たりの数値。

3) ; 品質は検査等級に準じて評価した。

表2 子実重に対する倍肥及び密植の効果(多肥密植試験)

系統名または 品種名	標肥平均 (kg/a)	倍肥平均 (kg/a)	倍肥効果 (%)	標植平均 (kg/a)	密植平均 (kg/a)	密植効果 (%)
中育24号	39.9	39.6	99	38.2	41.3	108
ツルコガネ	38.0	35.4	93	35.1	38.3	109
ユウヅル	37.2	34.9	94	34.5	37.7	109

1)昭和63年～平成元年の2か年平均値。

2)倍肥効果： $2\text{倍肥}/\text{標準肥} \times 100$ (標準植、密植の平均値)。

3)密植効果： $\text{密植}/\text{標準植} \times 100$ (標準肥、2倍肥の平均値)。

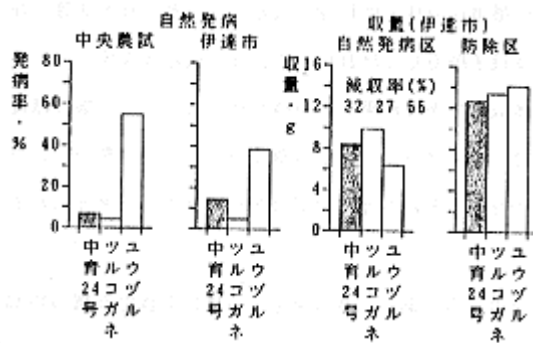


図1 わい化病発病率及び収量への影響
(昭和62年～平成元年の3か年平均値)